

低炭素水素シンポジウム (オンライン開催)



参加者を募集します!

参加費
無料

(通信料は自己負担となります。)

日時：2021年3月1日(月) 午後1時30分から午後4時まで

開催方法：Web会議アプリ(Zoom Webinar)によるオンライン配信

水素の製造・輸送・利用に伴う二酸化炭素の排出が少ない「低炭素水素」の意義や重要性を広く発信するため、「低炭素水素シンポジウム」をオンラインで開催します。

○ 基調講演「脱炭素に向けて活発化する低炭素水素導入拡大」

おかざき
岡崎

けん
健

東京工業大学 科学技術創成研究院 特命教授 (グローバル水素エネルギー研究ユニットリーダー)

○ 低炭素水素認証制度説明

○ 低炭素水素認証制度に基づく認定プロジェクト紹介

認定プロジェクトを現地の様子を交えて紹介します。

[認定プロジェクト]

知多市・豊田市再エネ利用低炭素水素プロジェクト (トヨタ自動車株式会社)

セントレア貨物地区水素充填所プロジェクト (株式会社鈴木商館)

豊田自動織機高浜工場再エネ利用低炭素水素プロジェクト (株式会社豊田自動織機、東邦ガス株式会社)

元町工場太陽光水電解水素ステーションプロジェクト (トヨタ自動車株式会社)

○ パネルディスカッション

[モデレーター] 愛知工業大学 教授

すずおき やすお
鈴置 保雄

[パネリスト] トヨタ自動車株式会社 プラント・環境生技部 生産環境室 企画第2グループ 主査

ほそめ かずなり

細目 一成

中部電力株式会社 事業創造本部 情報銀行ユニット長

そやま ゆたか
曾山 豊

東邦ガス株式会社 イノベーション推進部 マネジャー

かつらやま こういち
葛山 弘一

株式会社豊田自動織機 PE環境部 環境室 CO₂ゼログループ GM

とりい たつや
鳥居 達也



対象者：愛知県、岐阜県、三重県の事業者や一般県民 など

定員：200名程度(申込先着順)

参加申し込み方法：申込専用Webページからお申込みください。

(<https://eventregist.com/e/znt1o193XPws>)

応募時に入力されたメールアドレスあてに視聴用URLをお送りします。



申し込み期限：2021年2月26日(金) 午後5時まで

主催：愛知県

共催(予定)：岐阜県、三重県

事務局：愛知県環境局地球温暖化対策課温暖化対策グループ

問合せ先(県委託先)：

日本コンベンションサービス株式会社 中部支社

〒460-0008 名古屋市中区栄 2-10-19 名古屋商工会議所ビル 6階

TEL：052-218-5822 FAX：052-218-5823 E-mail：LCH2_sympo@convention.co.jp



低炭素水素シンポジウム (オンライン開催) 参加者を募集します!



参加費 無料

講演者プロフィール

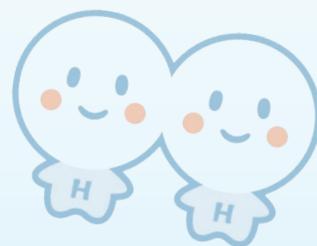
おかざき けん
岡崎 健

東京工業大学 科学技術創成研究院 特命教授
(東京工業大学名誉教授)(グローバル水素エネルギー研究ユニットリーダー)

1973年、東京工業大学工学部機械物理工学科卒業、1978年、同大学院機械物理工学専攻博士課程修了(工学博士)。1978年-1992年、豊橋技術科学大学助手、講師、助教授。1992年-2015年、東京工業大学教授、2015年4月より東京工業大学特命教授、および東京工業大学名誉教授。研究領域は、水素エネルギー、燃料電池、クリーン高効率石炭/バイオマス利用、地球環境保全、プラズマ化学反応など、エネルギー・環境に関して多岐にわたる。日本機械学会副会長、水素エネルギー協会会長、日本伝熱学会会長などを歴任。学会等からの受賞多数。2007年10月から2011年10月まで、東京工業大学理工学研究科工学系長・工学部長。現在も、内閣府、経済産業省等の委員多数。2011年10月より2017年10月まで日本学術会議会員(現 連携会員)。

2016年度以降の関連事業

- ・ 経済産業省資源エネルギー庁「CO₂フリー水素WG」座長
- ・ 同 福島新エネ社会構想実現会議「再生可能エネルギー由来水素検討WG」座長
- ・ あいち低炭素水素サプライチェーン推進会議 座長
- ・ 新潟カーボンニュートラル拠点化・水素利活用促進協議会 座長



講演内容

水素エネルギーの導入には、温暖化対策やエネルギーセキュリティ確保に十分な量的寄与、すなわち低炭素水素(CO₂フリー水素)の利活用拡大が必須である。また、水素は電力を大規模かつ長期的に貯蔵することが可能で、電力系統の安定化対策や再生可能エネルギー導入拡大にも大きく寄与する。水素エネルギーは燃料電池車や家庭用燃料電池コジェネへの利用から産業利用や水素発電などの大規模利用へ大きく展開しようとしているが、これを促進するためには多くの事業者の積極的参加と投資が必要で、インセンティブ付与のための制度設計も不可欠である。グローバルなサプライチェーンの構築に向けた実証も進んでいる。昨年秋の首相の2050カーボンニュートラル宣言以来、地方の活動が活発化しており、官民一体となった低炭素水素大量導入に向けた機運が急速に高まっている。



参考資料

低炭素水素

水素は、利用の段階で二酸化炭素を排出しないことから、地球温暖化対策に大きく貢献し得るエネルギーとして期待されている。

しかし、現在、国内で流通する水素のほとんどが化石燃料由来であり、製造段階では二酸化炭素が発生していることから、低炭素社会の実現に向けては、再生可能エネルギーを活用して水素を製造することなどにより、より低炭素な水素サプライチェーンの構築が不可欠である。

低炭素水素認証制度

愛知県では、低炭素水素サプライチェーンの構築に向け、製造・輸送・利用に伴う二酸化炭素の排出が少ない水素を「低炭素水素」として認証・情報発信する本県独自の「低炭素水素認証制度」を2018年4月に制定した。